

煙火製造施設定期自主検査結果表

製造所の附近にある 保安物件の名称		当該保安物件から最短 距離にある危険工室等	保安距離及び当該 保安物件までの距離	土堤・簡易土堤 又は防爆壁の別	判定
第 一 種		爆発 ・ kg	m ・ m		適・否
		発火 ・ kg	m ・ m		適・否
		一時置場 ・ kg	m ・ m		適・否
第 二 種		爆発 ・ kg	m ・ m		適・否
		発火 ・ kg	m ・ m		適・否
		一時置場 ・ kg	m ・ m		適・否
第 三 種	(事業用・非事業)	爆発 ・ kg	m ・ m		適・否
		発火 ・ kg	m ・ m		適・否
		一時置場 ・ kg	m ・ m		適・否
第 四 種	(事業用・非事業)	爆発 ・ kg	m ・ m		適・否
		発火 ・ kg	m ・ m		適・否
		一時置場 ・ kg	m ・ m		適・否
検査項目		検 査 内 容		補正修正事項	判 定
標 識		製造所入口付近の見易い場所に掲げてあるか。			適・否
掲 示 板		避難方法、消火活動等は明記されているか。			適・否
境 界 柵		危険区域の周囲に、無用者が容易に立ち入れないように設けてあるか。			適・否
警 戒 札		危険区域の入口、危険区域及び製造所との境界の必要な箇所か。 また、見易い場所であるか。			適・否
防火用空地		森林内は境界柵沿いに巾 2 m 以上維持されているか。			適・否
危 険 区 域 内	施 設	作業上やむを得ないものか。また、必要としなくなったものではないか。			適・否
	気かん室	固定燃料を使用していないか。			適・否
	保安間隔	停滞量に応じた距離は維持されているか。			適・否
	爆発の危険工室	構造、材料は火焰、爆発に対して維持されているか。			適・否
	一時置場	煙火の種類、停滞量により避雷装置を要するものではないか。			適・否
	爆発の危険工室	耐火構造は維持され、防火壁を要するものではないか。			適・否
土 堤		こう配、高さ、厚さ等の基準は維持されているか。			適・否
簡易土堤		〃			適・否
防 爆 壁		位置、構造、材質等の基準は維持されているか。			適・否
防 火 壁		延焼を防止できる構造は維持されているか。			適・否

延焼遮断装置		常緑樹に枯れ等の異常はないか。		適・否
検査項目		検 査 内 容	補正修正事項	判 定
避雷装置		別紙点検表のとおり・・・・・・・・・・様式45		
消火装置		貯水池等の水量、消火栓の機能は正常に作動するか。		適・否
危険 工 室	防爆式構造	構造、厚さ、屋根、防爆面等の基準は維持されているか。		適・否
	扉	外側に開き、避難し易いか。金具には鉄と摩擦しない様真ちゅう等が使用されているか。		適・否
	窓	ガラスは不透明なものを使用しているか。		適・否
	内 面	土砂類のはく落、飛散を防ぐ構造に異常はないか。		適・否
	床 面	鉄類は表われていないか。		適・否
	原動機	設置は隔壁で完全に仕切られた別室であるか。		適・否
	機械器具	確実に固定され、動揺、部品の脱落、腐食のないよう管理されているか。		適・否
	照明設備	電燈の安全な防護措置に異常はないか。また、室内に電動線の表われはないか。		適・否
	機械設備	金属部の接地に異常はないか。		適・否
	火薬類の粉塵の飛散	カバー等の防止措置に異常はないか。		適・否
	加圧設備	ストッパー、圧力計の作動に異常はないか。		適・否
	乾燥設備	温度測定装置は正常に作動するか。		適・否
	加温装置	火薬類の侵入しない措置に異常はないか。		適・否
	静電気の発生	帯電防止剤等の静電気除去措置に異常はないか。		適・否
	掲示板	火薬類の種類、停滯量、原料の種類、存置量、定員、取扱心得等は明記されているか。		適・否
	入 口	静電気除去設備に異常はないか。		適・否
	火薬類の飛散	天井、内壁に隙間はなく、水洗に耐え、表面は滑らかになっているか。		適・否
普通木造建築物		危険工室に面している場合の耐火措置は良いか。		適・否
日 乾 場		乾燥台の高さは良いか。また、放冷設備を要するものではないか。		適・否
廃薬焼却場		周囲の樹木雑草等は伐採してあるか。		適・否
原料薬品貯蔵所				適・否
運搬	容 器	収納物に合った材料を使用しているか。また蓋の取付けに異常はないか。		適・否
	手押車	ゴム車輪等で衝撃を緩和できる構造か。		適・否
	通 路	路面は平坦であるか。		適・否
検査を指揮監督した保安責任者による記名				